



ジャパンフーズ<2599>、丸紅<8002>系投資会社アイ・シグマ・キャピタルによるTOBで株式を非公開化



ジャパンフーズは10日、丸紅傘下の投資会社であるアイ・シグマ・キャピタル（東京都千代田区）によるTOB（株式公開買い付け）を受け入れ、株式を非公開化すると発表した。アイ・シグマは筆頭株主である伊藤忠商事の所有分を除く63%余りの株式をTOBで取得する。買付代金は最大約61億1000万円。ジャパンフーズは飲料製造受託事業を中心とするが、国内飲料需要の伸び悩みや原材料費・燃料費の高騰、大手飲料メーカーによる内製化の動きといった外部環境の変化に柔軟に対応し、中長期な企業価値を高めるには非公開化が望ましいと判断した。

TOB主体はアイ・シグマ・キャピタルが設立した買収目的会社のJAFホールディングス（東京都千代田区）。ジャパンフーズ株の買付価格は1株につき1994円で、TOB公表前日の終値1399円に42.53%のプレミアムを加えた。

ジャパンフーズはTOBに賛同し、株主に応募を推奨することを決めた。TOBが成立すれば、同社の東証スタンダード市場への上場は廃止となる見通し。

買付予定数は306万7178株。下限は所有割合30.27%にあたる145万9800株。買付期間は5月13日～6月21日の30営業日。決済の開始日は6月27日。公開買付代理人はSMBC日興証券。

ジャパンフーズの筆頭株主である伊藤忠は所有する36.39%の株式（間接所有を含む）についてTOBに応募しない。TOB成立後、ジャパンフーズが自己株取得を実施し、伊藤忠から全株式を約28億5000万円（1株1626円）で買い取る。TOBの買付代金と合計すると総額約89億6000万円となる。

ジャパンフーズはペプシコーラの国内ボトラー（瓶詰め業者）だった日本飲料の製造部門を前身に、伊藤忠の子会社として1976年に設立。2000年に株式を店頭登録し、2003年に東証2部に上場。2005年に東証1部に昇格した（2022年4月に東証スタンダード市場に移行）。千葉県長柄町に本社工場を持ち、清涼飲料、酒類飲料など各種飲料の製造受託を幅広く手がけている。